

### 進路選択の視野広げて

#### 公・私立高などが学校説明

【函館発】道教大附属函館中学校（小林真三校長）は18、20日の3日間、同校で3年生101人を対象とした進路学習会を実施した。写真＝1。函館市内の公立・私立高校、国立高等専門学校16校の教職員が各学科で学ぶことのできる学習内容や建学の精神を説明

明。生徒はそれぞれの学校の特色について理解を深め、進路選択の視野を広げる機会とした。学習会を前に、同校では入学者選抜の仕組みの確認のほか、生徒が個々に興味のある高校等について調べ、質問内容を書き取る事前指導を導入。各日行われる

5校の説明会を通して市内の高校等に対する理解を深めた。



館白百合学園高校、函館大谷高校、函館工業高等専門学校、函館大学付属有斗高校、函館工業高等専門学校が担当者が来校した。うち白百合学園高は光井雅香子校長と入試広報委員会の高橋佑弥教諭が教育理念や卒業後の進路選択を

同校について「聖書の『隣人を自分のように愛しなさい』という言葉のもと、愛の教えに基づき教育を大切にしている」とし、ボランティア活動などを通して社会に貢献する人材育成に努めていると説明した。

多様な進路に合ったコース選択のうち、看護医療系進学コースでは五稜郭病院をはじめとする総合病院で教育実習を受けられる特徴があることを伝えた。

同校大谷高の木戸口靖之

教頭は建学の精神を解説。「人の道を確認、理解する」「自分にとって起きた事実を受け入れる」「精神に込めた人材育成の思いを通して、誰にでも優しく寄り添える心を育てていくことができる」と話した。

また、同校では「全ての生徒の学力を上げる教育に力を注いでいる」とした。各校が行う15分間の説明後、生徒は「カトリックならではの特別授業はあるか？」「進学と就職の割合

はどのくらいか？」など疑問点を質問した。活動を見守った黒田諭副校長は「大学進学率などの数値にとらわれず、各校のスクールカラーやポリシーを理解することは生徒の選択肢の幅を広げる上で有効」と話した。

おことわり 7年度公立高校「入学者の受入れに関する方針等」は、記事ふくそうにつき休載します。